

5. 認知症看護

事例：アルツハイマー型認知症 大腸がん術後（ストマ造設） 70歳代

ア. 概要：

経 過

大腸がん術後（ストマ造設）自宅療養中。ストマの自己管理できていたが、アルツハイマー型認知症が進行して、パウチ交換ができていないため不衛生な状態になっていた。同居家族（妻：要介護状態）の関わりが薄く、本人任せにしていた。家族から妻の担当ケアマネジャーに相談したところ訪問看護に依頼があり、サービス担当者会議が開催された。家族は自宅での生活に不安があると考え、各種サービスの利用と病状悪化や介護負担があればいつでも施設を利用できる体制整備を希望した。

病 状

認知症進行し入浴もできておらず、皮膚の汚れひどい。頭部・背部に乾癬あり、皮膚科で薬処方されているが塗布できていない。内服薬もきちんと服用できていない。フランジによるテープまけやフランジ隙間から便漏れがあり、ストマ周囲の皮膚もただれている。パウチも使い捨てにせず、洗浄して繰り返し使用していた。日中ほとんど臥床して過ごしている。

家族構成

妻と長男夫婦と孫の5人暮らし。キーパーソンは長男の嫁。

看護内容

家 族：○服薬管理（認知症、高血圧症） ○ストマの物品管理
看護師：○健康管理 ○ストマ管理・装具の交換 ○入浴介助 ○生活療養指導

介 護 度

要介護4

イ. 在宅療養支援の実際

- ・介護保険要介護認定申請を行い、介護保険サービスを利用できるように介護認定を受ける。
- ・サービス担当者会議を行い、本人・家族の意向を踏まえてサービス事業者とサービス内容について調整する。
- ・定期的に自宅を訪問して、本人・家族の不安や困り事に対して支援を行った。

【目 標】 異常の早期発見や合併症予防ができ、安心した在宅生活を送ることができる。

利用制度

○介護保険：訪問介護（洗濯、掃除）、訪問看護（ストマ管理、入浴介助）
短期入所生活介護
○社会福祉制度：身体障害者手帳（1種3級、直腸機能障害3級）

	日	月	火	水	木	金	土
午前			訪問看護			訪問看護	
			訪問介護			訪問介護	
午後							
					訪問診療		